

いつも 住民の目線が信条です この3年半、区議団副団長として

区民の声を第1に

回答が4,000件を超える区民アンケート、30を超える各界・団体と毎年の予算要望懇談会、日頃の区民との対話で寄せられる声を区政に反映させています。

ねばり強く提案・申し入れ

条例提案34件、予算編成替え提案17件、コロナで区長申し入れ22回。ねばり強く提案し、保健師増員など数々の区民要望が実現しています。



コロナ対策で区長あて申し入れ

行政チェック

〈新空港線〉

区民の役に立たない新空港線。区の負担は363億円(見込み)。中止・撤退を。

〈羽田再開発〉

大企業支援の空港跡地開発など税金のムダづかいに、きっぱり反対。



〈海外視察〉

新型コロナ感染で中止されているが毎年予算化。税金による区議会議員の海外視察は、きっぱりやめよと主張。

〈議員交通費〉

区議会議員の交通費1日3,000円を実費に改めよと提案。

大竹辰治の歩み

サッカーをやりました



日本の最低気温記録の地・旭川で「何にも負けない粘り」培う

大竹辰治さんは1952年、北海道旭川市生まれ。日本の最低気温記録・氷点下41度の極寒の地で「何にも負けない粘り」が培われました。高校時代はサッカー部で活躍しました。

外国航路の通信士をめざして上京

大田区の日本電子工学院(現日本工学院)に入学。19

歳の時、もうけ主義のマスプロ教育に疑問を感じ、社会について学びたいと青年運動に参加しました。

温かい人間集団・戦争反対の党・日本共産党に

卒業後、新蒲田の中小企業(東電舎)で技術者として働きました。青年運動や労働運動の中で、心温かい人間集団、侵略戦争に命がけで反対した党、日本共産党に感銘し入党、20歳でした。

「政治を変える力になりたい」と区議に挑戦

共産党や労働組合の活動を通じて、多くの人が悪政に苦しんでいることを痛感、「政治を変える力になりたい」と区議会に挑戦し39歳で初当選、以後8期連続当選、暮らしと営業、平和を守って全力を尽くしています。

皆さんの声を区政に届けて

8期 32年

今、コロナ感染拡大や物価高騰が、区民の暮らしや中小業者の営業を直撃しています。この間、ワクチン接種や業者の皆さんへの「給付金」申請などで350件にのぼるお手伝いをし、大変喜ばれました。あらためて議員として誇りをもちました。

福祉と暮らしを守る自治体本来の役割を投げ捨てる自民・公明の区政と正面から対決し、「18歳までの医療費無料化」などを皆さんと一緒に実現してきました。

大田から岸田政権が進める大軍拡と改憲にNO!を突きつけ、住民の福祉や暮らしを守る区政を前進させるために全力で頑張ります。9期目も必ず押し上げて下さい。どうぞよろしくお願いいたします。

STOP!
新空港線
[蒲蒲線]

大竹辰治
日本共産党
大田区議会議員
党区議団 副団長

おおたけ たつじ

●プロフィール●1952年、北海道旭川市生まれ。1972年日本電子工学院卒。同年 東電舎。1991年区議会議員(8期目)。現在、党区議団副団長、健康福祉委員、交通臨海部活性化特別副委員長。大田借地借家人組合 組合長。町会市民消防隊員・交通班長。《趣味》映画鑑賞、旅行、社交ダンス、カラオケ

大竹辰治

LINE公式
情報を配信中!
ぜひ登録を



大田区から
日本を変える

- 消費税5%減税、賃金上がる日本へ
- CO₂排出ゼロの大田区、気候危機打開を
- ジェンダー平等の大田区・日本へ
- 大田区平和都市宣言を生かす区政、核兵器禁止条約に参加する日本へ

地元でも議会でも

住民の命と暮らし、営業守って

8期 32年

「こんなにしてくれるのは大竹さんだけ…」

支援金申請サポート350件

「住民の苦難軽減」は日本共産党の立党の精神、大竹辰治区議の活動の原点です。新型コロナによる国や都のたび重なる休業・時短要請、さらに物価高騰が、中小商工業者の営業を直撃しています。大竹区議は、持続化給付金、家賃支援金、都協力金などの申請援助に奔走しました。

山添拓参院議員らとともに、居酒屋の灯を消すなど、商店街の声を聴く。右から2人目



大竹さんに言われて持続化給付金や給付金をもらって助かりました。政府の業者への支援は少なすぎるので、さらに増やしてもらおう大竹さんに期待します。

西蒲田 富士物産商会(正田裕英さん)



10回以上も申請のやり直しで諦めていた持続化給付金や各種協力が、大竹さんのおかげで給付されました。ほかの党の人にも来ますが、粘り強くこんなにしてくれるのは大竹さんだけです。

西蒲田 よねちゃん(米澤 滋さん)



安心できる介護制度にと主張し続けて25年

大竹区議は、介護保険の準備の段階以来25年間、だれもが安心して利用できる介護保険をと主張し続け、区内の特養ホームは19か所に。それでも入所待機者が1,000人、抜本的増設が必要です。

保険料・利用料の引き下げ、介護サービス・介護施設の拡充、介護従事者の処遇改善など、「やるべきことはますます増えている」と、大竹区議は情熱を燃やしています。



ジャカランダの木

環状八号線・西蒲田の歩道の植込みに立っているジャカランダの木。都は「車道側に伸びて危険なので撤去を」の警告。「残して」の住民の声で大竹区議は都に繰り返し要請。6月、難をまぬがれたジャカランダの木が紫の花を咲かせ、道行く人びとの心を癒しています。



“だれでもトイレ”が

池上5丁目公園。災害時などに誰でも安心して使えるトイレに改善を、と住民から区議会に陳情。大竹区議は実現に努力。素敵な“だれでもトイレ”ができました。



生きかえる呑川へ

大竹区議の提案で、都と3区の呑川水質浄化対策研究会が設置され、西蒲田の高濃度酸素水浄化施設が2021年4月から運転開始、少しずつ水質が改善され、ボラやカモが泳いでいます。さらに、田園調布公園に呑川合流改善貯留施設の工事も2021年度から5年計画で始まりました。



右手前は高濃度酸素水浄化施設

地元の安全のため

市民消防隊、町会の交通安全など、住民の日頃の安全のために地域の人々と心ひとつに取り組む大竹区議の姿に厚い信頼が寄せられています。

日本共産党
大田区議会議員
党区議団 副団長

大竹辰治

実現しました

高校生^{18歳まで}医療費無料化

条例提案(2022年9月)、議会質問など、共産党区議団は繰り返し提案。いよいよ2023年4月から実現します。

4年間で認可保育園23園1400人分増

認可保育園を希望しても入れなかった子どもは2022年4月時点で1000人。引き続き認可園増設が必要です。

新たな特養ホームが開設へ

大森東の貴船堀埋立地に特養ホームができます。118床、2025年に開設予定です。



学校給食無料化へ道開く

「給食費は保護者負担」との学校給食法を盾に「できない」と繰り返す大田区。しかし2022年9月、共産党質問に「自治体の判断でできる」ことを認め、無料化へ1歩前進しました。

大竹辰治のお約束

3つの安心

安全・安心な防災まちづくり

- 老朽化した小中学校の改修
- 西蒲田・新蒲田の交通不便地域にコミュニティバスを
- 横断歩道用点字ブロックの拡充
- 犬猫殺処分ゼロ

子育て・教育の安心

- 小中学校の給食費無償化
- 返済不要の奨学金の拡充
- 保育基準の引き上げ、保育職員の賃金引き上げ

住まい・福祉・営業の安心

- 高齢者医療費の負担軽減
- 国保料の引き下げ
- 特養ホームの増設
- 中小零細事業者への直接支援
- 公営住宅の増設